

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年7月29日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.34】

## 革マルの集団追及の手法はJR総連・東労組と酷似！

これまで、坂入氏が革マル派に拉致・監禁のうえ、自己批判をさせられたことを検証してきたが、東労組松崎元会長が「うちのメンバーで、革マル派に何年もパクられて事実上リンチをくった者が何人もいる」と述べたように (No.25) 革マル派は、過去から組織に従わない者、反抗する者を徹底して糾弾してきたようだ。このことから、JR総連・東労組の追及行動を想起する読者も多いはず。革マル派のやり方は、浦和電車区事件や三鷹電車区事件など、不都合な者を「組織破壊者」と決め付け、連日、多数で吊し上げる東労組のやり方とそっくりだ。革マル派は坂入氏と「討論」していると述べたが、東労組が浦和電車区事件の被害者・吉田氏を「説得」したと弁明しているのとまったく同じである。

### 驚くべき異常極まる革マルの暴力的糾弾のやり方！

前述の警察が作成したと確実視される革マル派「綾瀬アジト」の押収物の解析資料には、同派の反党行為者等への制裁方法が詳述されているので紹介したい。異常極まるやり方には驚くばかりだ (宗形明著「異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌」p.65～66)。

革マル派は、相互監視や幹部による点検等で構成員の規律違反を摘発し、違反者に自己批判を強要している。また、違反者に対しては、その程度に応じ除名、権利停止、活動停止等の処分を行い、特に異端・反党分子と見なした者に対しては、監禁・脅迫・暴力的査問等による徹底した追及を行っている。また、その者の所持品等は、全て組織が強制的に回収し、その者のイデオロギーと行動の詳細な分析を行い、同調者の解明、警察や敵対セクト等との繋がりの有無等を徹底的に調査している。更に、脱落者に対しても、最低限、権力への情報提供は行わないように確約させる等、組織防衛には異常とも思われるほど徹底した対策を講じている。

革マル派内では組織構成員各自が党規律に違反していないかどうかの相互監視体制をとり、違反者については、「ホウ・レン・ソウ」(報告・連絡・相談)の組織原則に沿って、上部機関等に報告させている。

反党的行動をとった者に対しては、「監査委員会」なるものを設置して徹底した糾弾を行い、自己批判させているが、それでも効果がない場合には、数名で取り囲んで「拉致」し、あらかじめ設定したアジト等に「監禁」して、1名の対象者に対して数名が24時間体制で監視している。この監視方法は、常時ドアチェーンを掛けて玄関を施錠し、トイレにも監視員が付き添い、就寝時には鎖で足を繋ぎ、この鍵の置き場所も定めておくという徹底した逃走防止策をとり、この監禁状態の中で反省・学習に専念させながら、自己批判を強要するというものである。そのうえで、特に重大な違反者に対しては、「追及査問会議」を開催し、大勢の同盟員の前で自己批判や決意表明を述べさせている。このような暴力的査問が行われていることは、組織内では周知の事実となっており、これに対する構成員の恐怖心が組織に対する離反、敵対を許さない思考を強制する要因になっている。

反党活動を行った「トラジャ」メンバーは、都内ホテルにおいて、全国から招集された約150名の同盟員等の前で、長時間にわたる糾弾を受けたうえ、自己批判を強要されている。この際の査問会場への移動は、各人ごとに数名の監視員が付き、手錠・マウスピース・ガムテープ等を使用して逃走防止の措置を講じたうえで、カーテン等で目隠した車両を使用している。